

釧路市立中央小学校 フィールド学習（2回目訪問） 実施内容

《概要》

[日程] 2019年9月25日（水）

[参加者] 5年生児童25名

[講師・案内] 環境省 矢部自然保護官

山本・安田（公益財団法人 北海道環境財団）

[フィールド学習の目的]

・湿原の風景、水環境、季節による違いなどに着目しながら、児童の関心を引き出す。

[実施プログラムの概要]

9:25 温根内ビジターセンター駐車場到着・オリエンテーション

9:45 温根内木道でのフィールド学習

11:40 フィールド学習終了

《実施内容（記録）》

■オリエンテーション（9:25）

○挨拶（環境省 矢部自然保護官）

今日は2回目の湿原ということで、皆さんが興味を持ったことを改めて観察したり、新しい発見をしてもらえたらと思う。わからないところはスタッフに聞いてもらいたい。



○スケジュールの確認（北海道環境財団 山本）

■2グループに分かれて、温根内木道でのフィールド学習（9:45）

※以降は1つのグループの活動を記録

（案内：北海道環境財団 山本）

○ビジターセンターに向かう道（小さな種の確認）

1回目で草の先に目立たないお花が咲いていたのを覚えているだろうか。草の先に付いているものの中に種があるか確認してみたい。（種らしきものを確認）



○ビジターセンターに向かう道

(キノコが生えた枯損木)

キノコが多くついている。途中で切られてしまっていて死んでしまった木だが、恐らく、風などによって途中で折れたものをノコギリで切ったのだろう。キノコが生え、よく見ると虫が食べた跡も見つけることができる。森の中で死んでしまった木も大切な役割がある。



○ビジターセンターに向かう道

(ドンダリの実が多く落ちている場所)

道の上を見るとドンダリがいっぱい落ちている。どこにドンダリの木があるか探してもらいたい。ドンダリはコロコロと転がるが、概ね、ドンダリが落ちている範囲の上にドンダリの木がある。



○木道を歩きながら、児童が関心を持ったものを見つけていく

1回目の訪問の時に「花」といっていたものの中に種が見つかるか、水がある場所に生えていたミツガシワ、ガマなどに種がついているか、それぞれの植物が生えている場所の地面に水は見られるか、水たまりで生き物は見られないか、木についている緑色のものは何なのか、水際に落ちている赤色の塊は何か、山際のぬかるみについた足跡は何の生き物のものか、木（ハンノキ）についた緑色の塊は種なのか、道端に生えているキノコ、ミズナラについたドンダリなど、1回目に見つけたものを再確認するとともに、夏には見られなかったもの、秋ならではのものなどを見つけながら、木道を散策した。





■ 温根内ビジターセンター到着・フィールド学習終了 (11 : 40)